

LNGが最大輸入品目に

ますます増す低廉・安定的なLNG調達の重要性

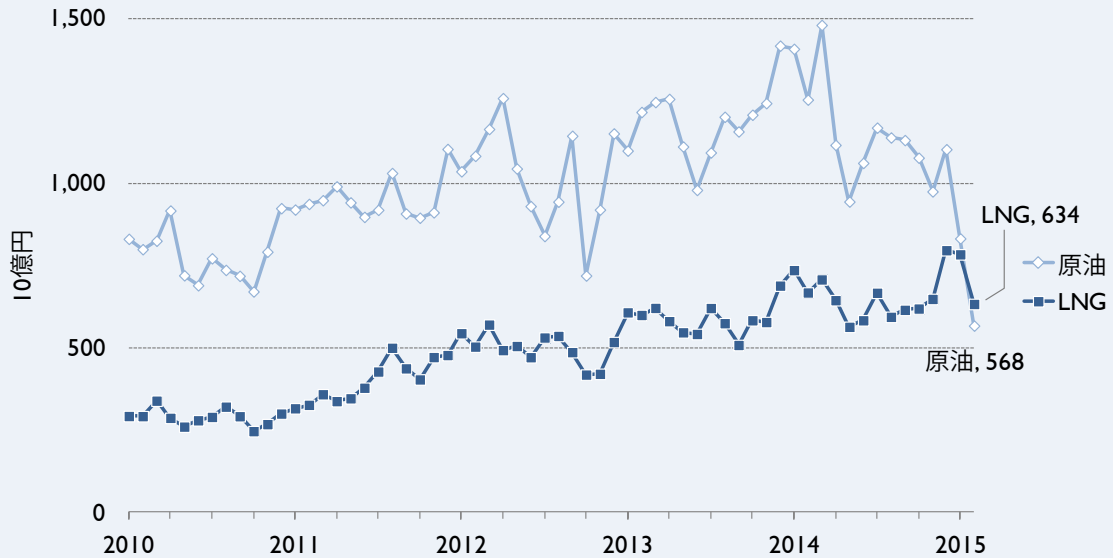
計量分析ユニット 需給分析・予測グループ 研究主幹 | 柳澤 明

要旨

貿易収支が改善傾向にある。2015年1-2月の貿易赤字は、前年同期比56%減の1.6兆円と、1-2月としては2012年以来3年ぶりの水準にまで縮小した。

そうした中、2015年2月の液化天然ガス(LNG)の輸入は、価格が前年同月比\$172/t下落したものの、数量は同22万t増加し、金額は6,337億円となった。一方で、原油の輸入は、数量が1,546万kLまで落ち込み、価格は\$49/bblとおおよそ6年ぶりの水準まで下落したことで、金額は5,678億円まで急減した。その結果、LNGが原油を上回り、最大の輸入品目となった。

図 | LNG、原油輸入額



この先、LNG輸入価格は、急落した原油価格をたどり低下することになる。そのため、LNGの最大輸入品目としての地位は、このまま定着するものではないと考えられる。しかし、LNG火力発電への依存が短期のうちには解消しそうにないこと、経済の回復に伴い都市ガス用消費が堅調に推移していることから、高水準の輸入量を維持する蓋然性が高い。そうした潮流を鑑みれば、LNGの低廉・安定的な調達に対する要請は、重みをますます増してゆくことになる。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp